

法を採用することは鎮圧である。私たちは上から下へ、内から外へと癒されてゆくのである。

症状は、自然の言語である。自然の急性症状の例えとして挙げられるものは、炎症、痛み、熱、皮膚による排出、粘液による排出、咳、怒り、後悔、悲嘆などである。これらの症状は全的有機体をバランスへ近づけるための自然の意図の表現である。均衡状態へ向けられたこの活動を抑圧することは自然の叡智に反する方向へ向かうことである。

(Robert Stevens, "The Soul of Hand Medicine"より抜粋: 拙訳)

「ヒーリング・クライシス」は日本の自然療法実践者の間では「好転反応」としてよく知られているものであろう。自然の浄化作用を抑圧していれば、症状は慢性化し、治癒の好転反応に到るまでに時間を要し、反応そのものも長引き、深刻なものとなるだろう。十分な免疫力があれば、「観戦」はしない。生命力・魂のエネルギーが「浄化」を必要としていけば、「観戦」し、「症状」を通じてその作業を行うのだ。

「観戦」症による症状は生命活動の発露である。それを「枠鎖」で予め妨げることは生命力の抑圧である。これら度重なる抑圧が後に慢性的症状として結晶化して表現されることは上図の通りである。

また、ロバート先生は胸腺は成長によってではなく、枠鎖摂取によって小さくなることを幾度も言われていた。

皆が知っていて当然のことであるが、ここであえて強調しておかなければならないことは、「**私たち各々が自然治癒という力を持っている**」ということである。5六7 関連情報では、このあまりにも当たり前の事実をあたかもないもののように扱ってはいないだろうか？

体を自然・生命体とみなし、その測り知れない力に敬意をもって生きる。

科学や技術の発展によって、人間が「自然をコントロールできる」というナルシズムに陥り、今日に見られる多くの問題が作られてきた。この「観戦症」の始まった年を真の健康元年として自己の生命体を内なる自然、魂の宿る聖殿として清める。ホンモノの、「いのち」のある食事、生命力溢れる生活スタイルを送るよう努めよう。

免疫力を高めることの大切さを言われる「真の」医師や自然療法士は多くいる。

現時点では、日本の医療従事者の70%が「5六7 枠鎖」を拒否していると聞いている。

リウマチの薬が原因で癌を患った母に故森下啓一先生が最初に言われた言葉：

「人には天国に行く人と、そうでない人がいる。

自然に沿って生きる人と、そうでない人と。。。」

私たちはこの言葉に意表を突かれたものだ。

森下先生は動じない澄んだ黄水晶のような光を放たれる方であった。森下先生が生きておられるなら、この状況を如何に見られ、何を私たちに伝えられるだろうか。先生が自然医学で言われていたことを憶え、実践に努めて行きたいと思う。先生の偉業は私たちの宝、「太陽」である。この宝にさらに磨きをかけ、一人一人が自然に沿って、その大きな流れの中に心身を委ね、真の自己を生きよう。

すでに聞いておられる方も多いであろうが、日本の研究者の方々が食物や天然のもので5六7 に対抗できるものの発見に尽力されている。大変素晴らしいことである。緑茶、5- アミノレブリン酸 (5-ALA)、温泉水など。そして、祈りで枠鎖を無害化し、皆を守ろうとする多くの方々がおられる。

私が5六7 危機においてより明確に見たのは、日本人の優しさ。素晴らしさであった。

これも大切な「宝」であり、私はそれを誇りに思っている。

人々を自己の利益や権益目的でコントロールしようとする者の意図を、人間の生命力の叡智が必ず凌駕する。

危機を乗り越える知恵、潜在力を私たちは持っているのである。

皆でこれを乗り切っていける。北風は太陽に勝つことはできない。希望を持って生きていこう。

私も、きっとそう遠くないうちに家族や日本の皆様にあえりと信じ、日々を乗り切っている。



photo : Daniele Franchi